

## 昭和 51 年の台風 17 号

昭和 51 年 (1976) 9 月 8 日～13 日、台風 17 号が九州南西海上に停滞したため、南から湿った空気が流れ込み、四国各地は記録的な豪雨に見舞われました。広範囲にわたって甚大な水害や土砂災害が発生し、災害復旧工事が行われました。香川県小豆島町と高知県高知市の土砂災害の例をご紹介します。

### ■谷尻地区の土砂災害 (香川県小豆島町)

昭和 51 年 (1976) の台風 17 号により、池田町 (現小豆島町) 四方指では 9 月 8 日～13 日の降雨量が 1,401 ミリを観測し、特に 11 日には年間雨量の約半分近くの 522 ミリの雨が降りました。このため、11 日午後 11 時 20 分に谷尻地区の白浜山の山腹が崩壊し、土石流が谷尻地区を襲い、海岸の谷尻漁港西側にまで達しました。この土石流により、民家 21 戸が押し流され、24 人の命が失われました。被災地の復旧防災工事は災害直後より町と県が一体となって着手し、昭和 54 年に完了しました。谷尻漁港に記念之碑が建立されています。<参考資料：池田町災害の記録編集委員会編「昭和 51 年 9 月台風 17 号の災害と復旧の記録」1979 年及び小豆島町編「小豆島災害の記憶」2014 年など>



### ■円行寺地区の土砂災害 (高知県高知市)

昭和 51 年 (1976) の台風 17 号により、高知市では 9 月 8 日～13 日に年間雨量の約半分の大雨が降りました。鏡川の随所で濁流が溢水し、中央部はほぼ全域が浸水する事態となりました。鏡川が堤防決壊の危険にさらされる中で、高知市長は非常事態宣言を発し、全市民に避難を促しました。円行寺地区では、大谷山の崩壊により、円行寺川を土石流が流れ、赤井谷の民家 8 戸 32 棟が流失・埋没し、流域の耕地約 5.2ha が砂れきと化すなど甚大な被害を受けました。地元住民は公民館活動で災害対策委員会を結成するなどして、国、県、市に災害復旧工事を働きかけ、昭和 54 年に工事が完成しました。円行寺遊園地に災害復旧記念之碑が建立されています。<高知市史編纂委員会編「稿本高知市史現代編」1995 年及び高知市円行寺公民館編「昭和 51 年 17 号台風災害誌」1980 年>

